

連携・協働のカ・タ・チ



令和3年9月8日発行 福島県教育庁会津教育事務所

“学校と地域をつなぐ” コミュニティ・スクールの情報提供

＝大戸小・中学校 学校運営協議会だより「すくすくコミスク」＝

大戸小・中学校 学校運営協議会だより 第1号 令和3年6月29日発行
「すくすくコミスク」
 文責編集：大戸小・中 地域連携担当教職員
 (一教頭：大庭 久・見川真直)

今年度第1回の『学校運営協議会』が6月21日(月)に開催され、いよいよ地域と学校の連携が実現されました。今回はその様子と『地域学校協働本部』について、大家がご説明いたします。

◆第1回『学校運営協議会』開催される！

大戸公民館で開催された協議会。まず、市教育委員会から新委員6名に委嘱状が交付され、16名での協議会がスタートしました。続いて自己紹介の後、白岩源一さんと白岩勉さんが昨年度に引き続き会長・副会長に選出されました。そして、学校要覧等を用いて学校の様子や運営ビジョンの説明があり、質疑応答を経て承認へ。さらに、今年度は協議会を5回開催することや、園・小・中や地域との連携の状況、公民館行事や今後の市との連携など、盛りだくさんの協議や確認が行われました。

協議会の最後に、「自転車通学や駅で降りる高校生が、しっかりと挨拶をしてくれる。個の成長を強く感じる」との報告がありました。小・中9年間と言わず、18歳やその後まで見据えた「キャリア教育」の視点が大事であると全員が再認識、この会の本質的な意義が共有されたと実感しました。

◆令和3年度 大戸小・中学校 学校運営協議会会長：白岩源一さんより
 今年度も引き続き会長として活動することになりました。今年度も新型コロナウイルスが会津で発生する中、小・中学校ともに教職員の皆様が子どもたちに精一杯の指導をされていることに心から感謝申し上げます。私たち委員も地域の一員として、まちづくり協議会と歩調を合わせながら、学校を支えていきたいと考えております。地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

◆地域と学校を結ぶ最重要人物は…？

地域と学校の連携は、これからの教育には不可欠なことです。では、地域と学校を結びつける役は誰が担うのでしょうか？ それが「コーディネーター」大戸地区では白岩勉さんが学校連携活動、白岩源一さんが放課後子ども教室を担当して下さっています。この二氏が『地域学校協働本部』の窓口となり、学校の窓口＝『地域連携担当教職員』の両教頭と連携を取り合っているのです。

公民館が事務局の『地域学校協働本部』が設立される運び。先月28日(土)の協働本部では、18名の地域ボランティアの皆様にご参加いただき、協議会がスタートしました。協議会がスタートした大戸地区の「すくすくコミスク」の発行も、地域と学校の連携を促進する役割を担っています。

◆コミスク・トピック

26日(日)の朝、大戸市内の国道を清掃する中高生を見かけ、地域奉仕活動に熱心で大立派ですね」との電話が、中学校に届きました。これは、会津方面で既に1回行っている活動とのこと。上記の「高校生生の挨拶」でも触れましたが、大戸に勤務するたった数年で10年20年先を見据え、キャリア教育・SDGsの視点で、地産を愛し貢献する人を育てたい…と思いました。

会津若松市の「大戸小・中学校 学校運営協議会」は、学校運営協議会だより「すくすくコミスク」を随時発行し、保護者や地域住民等に情報提供しています。

初刊の第0号では、学校運営協議会について分かり易く説明し、情報提供しています。今回は、6月21日に開催された今年度第1回の学校運営協議会の様子と地域学校協働本部について説明した第1号の紙面内容を紹介します。

紙面「A」部の掲載内容について

学校運営協議会の流れや協議の内容、様子について、写真を交えて伝えています。学校運営協議会会長の白岩様の言葉は、地域住民の参画を促すメッセージとなっています。

また、「小・中9年間と言わず、18歳やその後まで見据えた『キャリア教育』の視点が大事である」という重要な協議結果が、本たよりを通じて、地域全体で共有されることが期待されます！

【「すくすくコミスク」第1号の紙面】

◆第1回『学校運営協議会』開催される！



大戸公民館で開催された協議会。まず、市教育委員会から新委員6名に委嘱状が交付され、16名での協議会がスタートしました。続いて自己紹介の後、白岩源一さんと白岩勉さんが昨年度に引き続き会長・副会長に選出されました。そして、学校要覧等を用いて学校の様子や運営ビジョンの説明があり、質疑応答を経て承認へ。さらに、今年度は協議会を5回開催することや、園・小・中や地域との連携の状況、公民館行事や今後の市との連携など、盛りだくさん

んの協議や確認が行われました。

協議会の最後に、「自転車通学や駅で降りる高校生が、しっかりと挨拶をしてくれる。個の成長を強く感じる」との報告がありました。小・中9年間と言わず、18歳やその後まで見据えた「キャリア教育」の視点が大事であると全員が再認識、この会の本質的な意義が共有されたと実感しました。

◆令和3年度 大戸小・中学校 学校運営協議会会長：白岩源一さんより

今年度も引き続き会長として活動することになりました。今年度も新型コロナウイルスが会津で発生する中、小・中学校ともに教職員の皆様が子どもたちに精一杯の指導をされていることに心から感謝申し上げます。私たち委員も地域の一員として、まちづくり協議会と歩調を合わせながら、学校を支えていきたいと考えております。地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

紙面「B」部の掲載内容について

「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」は、それぞれが持つ役割を十分に機能させ、一体的に推進することで、相乗効果を発揮し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。

本日よりでは、「地域学校協働本部」や「地域コーディネーター」等の専門的な用語について、平易な表現で、とても分かり易く説明しています。

◆ 地域と学校を結ぶ最重要人物は…？

地域と学校との連携は、これからの教育には不可欠なことです。では、地域と学校を結び付ける役は誰が担うのでしょうか？ それが「コーディネーター」。大戸地区では白岩勉さんが学校支援活動を、白岩世都さんが放課後子ども教室を担当してくださっています。このお二方が『地域学校協働本部』の窓口となり、学校の窓口＝「地域連携担当教職員」の両教頭と連絡を取り合っているのです。

公民館が事務局の『地域学校協働本部』は、いわば、学校の願いを叶えてくれる頼りになる組織。先月28日の大戸中プール清掃では、18名の地域ボランティアの皆様にご協力いただきました。呼びかけてくれた白岩勉さんは、まさに大戸地区の“最重要人物”ですね。



◆ コミスク・トピック

「26日（日）の朝、大戸町内の国道を清掃する中高生を見かけた。地域奉仕活動に熱心で大変立派ですね」との電話が、中学校に入りました。これは、会津児童園が年に1回行っている活動とのこと。上記の「高校生との挨拶」でも触れましたが、大戸に勤務するたった数年でなく10年20年先を見据え、キャリア教育・SDGsの視点で、地元を愛し貢献する人を育てたい…と思いました。

紙面「B」部の掲載内容について

地域住民等から学校に寄せられた声、子どもたちに関する「いい話」を掲載しています。このように、地域で見られた子どもたちのよい姿を地域全体で共有することで、子どもたちを温かく見守り、よりよく育てていこうとする意識の高揚や雰囲気の醸成が期待できます！

積極的に情報提供することが努力義務に！

学校運営協議会制度に関する法改正（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6 平成29年施行）により、協議結果に関する情報を地域住民に積極的に提供することが努力義務となりました。

特に、コミュニティ・スクール（以下CS）に関する用語は、地域住民等にとって日常用語ではないので、CS導入1年目は、繰り返し、繰り返し説明していくことが大切です。

FUN は FAN をつくる！

たよりの編集は大変ではないかと思い、学校運営協議会だより「すくすくコミスク」の編集を地域連携担当教職員として担当されている、大戸小学校 大越 久教頭先生と大戸中学校 荒川真彦教頭先生のお二人に尋ねたところ、「楽しみながら作っています！」との声が返ってきました。

楽しんで（FUN）作られた学校運営協議会だよりを通して、学校を応援・支援する地域のファン（FAN）が増え、学校の応援団になっていただけないかと思います。

